

B 個別学習（B 1）

主な学習活動

技のできばえを視覚的に振り返りながら、課題の解決のために考えたことを友達と伝え合う。

1 本時のねらい

後転、開脚後転、伸膝後転の技を安定して行うことができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

電子黒板

動画撮影

ファイル共有

3 参考にしてほしいポイント

電子黒板の利用により、技のポイントを分かりやすく共有することができる。また、技が得意な児童の動画もスムーズに共有することができる。ロイロノートに毎時間の動きを撮影して記録することにより、自己の変容を確認することができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	後転、開脚後転、伸膝後転を子どもたち同士で教え合いながら、安定して行うことができるようにする。	（電子黒板） 技のポイントを確認する際に、事前に見合う視点を示す。 （動画撮影） 技を行う時の動画を友達に撮影してもらうことにより、自分で技能のこつを確認・分析しながら、課題を明確にできるようにする。

電子黒板

+

タブレット



後転は難しそうだなあ…。



動画で見てみるとできているかどうか分かるね！

4 活用効果

電子黒板の使用によって手本の動画が見やすくなり、技のポイントをより分かりやすくおさえることができた。また、タブレットの活用によってすぐに技のできばえを確認することができるので、子どもたち同士でアドバイスし合いながら取り組むことができ、技能の向上につなげることができた。

5 アドバイザーからのコメント

「手本の動画を見て技のポイントを分かりやすくおさえることができた」と書いてありますが、その通りです。実際に技を見る方法と動画を見る方法を比較した研究がありますが、学習効果があったのは動画のほうでした。それは、その場でポイントを示すことができるからです。（東京工業大学 赤堀侃司）

「手本となる動画を共有表示デバイス」「児童自身の動画をICT端末」と分けて再生することにより、見比べることが容易になり課題点を見だしやすくなるのが期待できそうです。動画のポートフォリオも、自身の課題に関する解決策を生み出す原動力になりそうです。（福島大学 平中宏典）